

## 人を思いやる心

もうすぐ今年も終わりです。そして、新しい一年が始まります。次代を担う子どもたちのためにも、新しい年が希望に満ちた素晴らしい年になることを願っています。

グライ・ラマ14世の著書に「思いやり」という本があります。「人間には、愛や思いやりを称えられる能力があります。このささやかな能力こそ、人間のもっとも大切な天分だとわたしは思うのです。」「幸福は思いやりの心から生じるものであって、怒りや憎しみからは生じません。」と述べています。

東洋大学では毎年、全国の小・中・高・大学生から『現代学生百人一首』と題して短歌を募集しています。この取り組みは、1987（昭和62）年に創立100周年の記念行事として開始されました。大きな反響と多くの方々からの支持によって、毎年瑞々しい歌が集まります。それぞれの短歌は、時代や感覚の変化、そして、いつの時代も変わらぬ「思いやりの心」などを表現した学生ならではの視点で詠まれています。

これまでの入選作品を読みながら、現代に生きる中学生や高校生のとても素敵な「人を思いやる心」を、何点か紹介させていただきます。

- ・家事をする 母の背中を見ていたら ふいに声出た 『私がやるよ』
- ・『受験費用 心配しなくてよいから』と 父のメールに 涙こらえる
- ・『はよ起きや』『わかってるわ、うるさいな』 ほんまは毎朝感謝してます
- ・両親の 働く姿に胸打たれ そっと終わらすマイ反抗期
- ・お爺ちゃん みんなの話題と違うけど 私はちゃんと 聞いてるからね
- ・初任給で 何か送ると電話した 頑固な祖母が 静かに泣いた
- ・『帰るね』と 言ったら急に話し出す 祖母の顔見て『まだいようかな?』
- ・だんだんと 母になりゆく姉がいて おなかに話す優しい笑顔
- ・手を握る ずっと握っているけれど もう感じない爺ちゃんのぬくもり
- ・ほうれん草の おひたし最近 水っぽい 握力落ちた 母の細腕

これらの作品を読んでいると、相手のことをとてもよく理解していて、心にじ〜んときます。相手の立場に立つ感性、共感力がとても素敵です。

相手の立場に立ってものごとを考えるためには、自分の『立つ位置』を変える必要があります。例えば、私たちは、用があってエレベーターを待っているとき、『早く来ないかな、早くドアが開かないかな』という思いを持ちます。また、エレベーターが到着し、自分がその中に入り、次々と人々が乗り込んでくるようすをみながら、動き出すのを待つときは、『早くドアが閉まらないかな、早く動かないかな』という思いを持ったりします。

それは、自分の『立つ位置』が変わったことに起因しています。前者はエレベーターの外、後者はエレベーターの中という、自分の立っている位置の違い。距離的には、ほんの少しの違いですが、立つ位置の違いが、人の思いを大きく変化させます。

私たちは普段、『大人』という立場から、子どもたちや『高齢者』の方々等を見守っています。『自分たちからのものの見方・考え方』で見守ったり、考えたりしています。しかし、意識しないと、子どもの側からの視点、高齢者の方々からの視点、また『障がい』を有するの方々からの視点から、ものを見たり考えたりするということは、あまりないのではないのでしょうか。

暮らしの中で、自分が立っている位置からばかりでなく、相手の側からの視点で考えてみよう意識することで、相手が何を思い、何を期待しているのかにもっと気づくことができるのではないのかと、エレベーターに乗って、改めて考えました。大いに意識して、実行を心がけたいものです。

ところで、「相手の立場に立つ」「他者への思いやり」といった話になると、「三尺の箸」の話思い出します。

昔、ある人が地獄と極楽への旅をしました。最初に訪れた地獄は食事の時間で大勢の人が食卓に向かっています。地獄だというのに食卓にはご馳走が並んでいます。でも手にしているのは、長さが三尺（1メートル弱）もある箸。

空腹なので何とか食べ物を口に入れようとするのですが、あせるばかりで、鋭い箸の先で周囲の人を傷つけてしまったり、自分も周囲の人の箸で傷つけられたり・・・。

次の訪れた極楽も食事の時間で、ご馳走は地獄と同じです。三尺の箸を使うのも同じ。でも極楽の人は笑顔で、美味しく食事を楽しんでいます。どうしてでしょうか？

極楽では、その長い箸で食べ物を挟むと向かいの人に食べさせ、自分も向かいの人から食べたいものを食べさせてもらっていたのです。

同じ状況に置かれても、そこにいる人々の心の持ち方次第で地獄にも極楽にもなるということですが、他者への思いやり、みんなで協力し合うことが集団にとっていかに大切であるかを改めて考えさせられます。

相手への思いやり、協力の大切さについては、ずいぶんと考えさせられますが、思いやり、協力、優しさといったものは、『自分が相手からしてほしいと願うことを、自分が相手にすること』ではないかという気がします。

また、それは、『自分が相手からされたくないことは、決して相手にしないこと』でもあるのかなとも思います。学級や学校、家庭や地域といった集団での生活においては、そういう意識を常に持ち続けていきたいものです。

今年も多くの方々に支えていただきました。深く感謝いたします。ありがとうございます。どうか、よき年をお迎えください。（次号は1月9日発行）